

## 論文要旨

所属ゼミ	小林 研究会	学籍番号	80028687	氏名	原 格
(論文題名)					
<p>『電力ビジネスにおける競争戦略の構築』            —電力規制改革と分散型電源の普及を視野に入れた戦略的提言—</p>					
(内容の要旨)					
<p>本論文は、電力事業における2つの大きな流れとして、制度の面から規制改革、技術革新の視点から分散型電源の普及可能性に着目し、規制下にある日本の電力会社に対し戦略的提言を行うことを目的としている。</p> <p>研究方法としては、規制改革の進んでいる欧米電力会社を合計12社取り上げ、事例研究を行った。まず、規制改革によってさまざまな業界からの新規参入が増加している電力業界を、大きくりに把握するために</p> <p style="margin-left: 20px;">縦軸として&lt;機能特化型 ⇔ 垂直統合型&gt;            横軸として&lt;大型発電+中央制御方式 ⇔ 分散型電源方式&gt;</p> <p>とする2軸を用いて類別した。この結果、電力市場は以下の4つに分類された。</p> <p>象現A：安定システム・公益重視型（垂直統合、大規模発電）            象現B：バリューチェーン変革型（機能特化）            象現C：次世代テクノロジー追求型（分散型電源、燃料電池）            象現D：トータル・エネルギー・ソリューション型（未来のエネルギー供給システム）</p> <p>これら4類型について、企業の経営活動に影響を与える外部環境、競争優位を築くために必要な経営資源を整理し、各企業のプロフィット・プールを作成することによって収益構造を明らかにしている。その結果、以下のような結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 電力ビジネスは遅かれ早かれアンバンドリングの方向に進み、かつ国際競争を視野に入れた競争戦略の構築を迫られている。</li> <li>② 規制市場内で企業体質の強化が遅れることは、市場の変化から取り残される危険性を高める。</li> </ol> <p>これを受けて、日本の電力業界におけるリーディング・カンパニーである東京電力に対して、将来のエネルギー産業全体を視野に入れた以下のような提言を行っている。</p> <p>「スムーズに次世代テクノロジーを取り込み、新しい価値創造のしくみに対応するためには、現状の垂直統合型事業運営から、機能分離による柔軟性の高いバリューチェーン変革型への転換を早め実現するべきである。」</p>					